

## 前提となる概念

### 1 治水に係る前提概念

基本高水 洪水防御に関する計画の基本となる洪水（河川法施行令10条の2第2号イ）、そのハイドログラフ（河川のある地点における水位・流速・流量等と時間の関係を図示したもので、ほとんどの場合、横軸に時間、縦軸に流量をとり、特定の地点における流量の経時的変化を表す流量図を指す。）。

計画基準点 洪水防御計画において目標とする安全度を評価する地点。既往の水理、水文資料が十分得られて、水理、水文解析の拠点となり、全般の計画に密接な関係のある地点を選定し、計画に必要な箇所に設けるものとする。

計画規模 計画対象地域の洪水に対する安全の度合いを表す数値であり、一般に、水文量の年超過確率（ $1/x$ 。 $x$ は、対象降雨の降雨量の超過確率年）によって表される。（例えば、計画規模 $1/100$ は、概ね100年に1回発生する規模の降雨による流量の、安全な流下を図るものである。）

対象降雨 計画基準点ごとに降雨量、降雨量の時間分布及び地域分布の3要素を決定することにより表される降雨であり、従前の計画降雨との表現を改めた。

計画高水流量 基本高水の流量を合理的に河道及び洪水調節ダムに配分して決定された各地点の基準となる高水流量

洪水調節容量 洪水調節のための貯水池（ダム）の貯水容量であり、対象とするハイドログラフ及び調節方式から設定する。

### 2 利水に係る前提概念

有収水量 水道メーターを実際に通過し水道料金収入に繋がった水量をいう。

無収水量 浄水場から配水された浄水のうち、水道メーターを通過しなかった

水量を指し、主に作業水や水道管の漏水等がこれに該当する。

有効率 浄水場から配水された水量のうち、漏水せずに有効に到達した割合を指し、「有収率」とは、浄水場から配水された水量のうち、有収水量が占める割合を指す。

一日平均給水量 一日平均有収水量を有収率で割り戻した値を指す。

負荷率 年間における給水量の最大値に占める平均値の割合を指し、負荷率が小さいほど変動幅が大きいことを意味する。

一日最大給水量 一日平均給水量を負荷率で割り戻した値を指す。

以 上